

の歳計額に匹敵せり。斯くて財政行政税制の改革や、事業繰延などの聲高し。されば、我れ等國民たるものは、勤と儉と並び勵み、以て多々益々國費を負擔し、國運の發展、國光の宣揚を資けざるべからず。

第四節 教育神社宗教

教育 我が教育の普及發達は、實に世界に稀にして、今や清國などよりの留學生、かず多きに至れり。國家富強の根源が、教育にありとせば、豈に之を廢せずして可ならんや。

内地の小學校は、其の數三萬に近く、學齡兒童の不就學者が、僅に百分二に止まるは、實に世界稀有の事に屬す。中學校の生徒は十二萬、高等女學校のそれは五萬に近く、高等の學校には、官立の大學四個、高等學校八個、醫學專門學校六個、高等商業學校五個、高等工業學校六個、高等農林學校二個、工藝

・八五〇萬人

下記の？は所在地を問ふのなり

蠶絲鑛山に關する專門學校各一個、高等師範學校四個、陸軍大學校海軍大學校陸軍士官學校海軍兵學校海軍機關學校各一個、などある外、同程度の公立(府立)私立に係る者もあり。神社 神社は、名君賢士などを奉祀し、神宮の外に、官幣社(大社中社小社)別格官幣社國幣社(中社小社)府縣社郷社村社などの別ありて、總社數、千六百餘あり。

宗教 帝國固有の宗教は、神道にして、佛教と共に、國民の大部が信奉する所なり。其の佛教には、天台眞言淨土曹洞眞日蓮等の諸派ありて、總寺院數、一千餘あり。耶蘇教は、昔時國禁たりしが、今や漸次信徒を増さんとす。

第五節 交通

道路 國道縣道里道の三種ありて、橋梁と共に、漸次改善せられつゝあり。

鐵道 全長約六千哩、一地方の交通に關するもの、外、今や概ね國有となりて、延長の度著し。又今や、電車鐵道、到る處に敷設せられんとし、中にも東京市は、世界中、一經營者にして、最も長き電鐵線路を有するものなりと云ふ。

鐵道は、北州に五條の本線あり。奥羽には、二條の本線ありて、其の一線は、遠く東京に來れり。東京に起るものは、東武鐵道の外に、大凡四條あり。水戸兩毛二線は、關東平野の北部を東西に通ず。其の後者と、に於て接続する？線は、遠く新潟(附)に赴けり。東京より西する二線は、名古屋に於て相會し、其の一線は、名古屋より西する？線と、大阪に至る捷徑を競ひ、神戸に終れり。之と米原にて接続する？線は、北陸道に赴き、將に？線と連絡せんとす。大阪附近より北する？線は、本州を縦貫し、中途、京都より來る？線と連絡せり。神戸より西する？線は、遠く下關に達す。之と姫路に於て相交はる？線も亦、本州を縦貫し、宍道湖の西方より來れる？線と、將に連絡せんとす。又右二條の縦貫線は、連絡せり。四國は、鐵道の延長十分ならざるも、九州には、南北に縦走する？線の外、豊州線あり、長崎線あり。其の長崎線は、三條の支線を有す。



瀬戸内海(左) 瀬戸内海(右)

臺灣には、一條の縦貫線あり？？二線は、相連りて朝鮮を縦貫し、其の一線と、鴨綠江の鐵橋によりて、接続する。安奉線は、遠く奉天に達して、旅順長春間の本線、即ち南滿洲鐵道と連絡せり。以上は、我が國の有する主要鐵道にして、滿洲以外のものは、諸子の既に學びたる所、宜しくそれ等の起點終點交叉點を考へ見るべし。

航路 瀬戸内海は、海峡多くして、潮流矢の如く、日本海は、冬季に風浪高し。北方の沿海は、屢、深霧起り、冬季に氷結し、春季に流氷漂ふ。臺灣の東西海上も亦、風浪高きを常とす。されど概言するに、我が近海は、航海安全にして、帆船汽船の往來繁し。

帆船(帆船)は四十萬噸、また汽船は百二十萬噸に達し、當に近海航路のみならず、遠洋

航路に於ても、海國民の特性を發揮し、今や東亞の海面に於ては、海上王たるの感あり。嗚呼明治の初年、汽船一萬五千噸に止まりし時、誰かよく今日あることを期せんや。

海運業者の主なるものは、日本郵船會社、大阪商船會社、日清汽船會社にして、大なる海外航路に、歐洲桑港、タコマ、シンクトル、南米、濠洲、孟買、カルカッタの八線あり。

郵便 明治四年、東京横濱間に、初めて行はれしものなれども、其の發達著しくして、今や内地に於ける一人の引受郵便物は、年に二十五通(英米通)を算す。又明治十年、萬國郵便聯合に加盟し、海外に關する郵便物も、漸く増加するに至れり。

電信 明治二年、東京横濱間に、初めて開通し、今や内地は勿論、朝鮮、臺灣に至るまで、發達著しく、又明治十二年、萬國電信聯合に加盟して、海外との交通も、漸く頻繁ヒジメとなれり。但し

長崎より、浦鹽斯德又は上海に至る海底電線は、丁抹の大北電信會社の有する所なり。

無線電信は、海岸の要地に設けられ、近海又は遠洋の航路船など、通信を交換し、今や遠く、布哇フワとの通信も、開始し得らるべきこと、有望となれり。

電話は、明治二十二年、初めて創設せられしものなれども、日に延長せられ、朝鮮、臺灣も亦、内地の如く發達しつゝあり。

結論 地理上より見たる吾人の多幸多福

我れ等數千萬の同胞は、寔に多幸なり。何となれば、地文上頗る優勝なる地境に住めばなり。我れ等數千萬の同胞は、寔に多福なり。何となれば、人文上、旭日昇天の發達をなしつゝある、日東帝國の國民たればなり。

地文上、優勝なる地境を保ち得らるゝも、亦人文上、國運の豊さか昇るも、是れ皆、あやに歎き大君の御稜威の致す所にあらずや。

然り吾人は、大君の御稜威によりて、地文上、人文上、多幸多福なる國民たるなり。されば日夜、之に應へ奉るべき、心がけして、ゆめ怠らざるこそ、眞個に、日本國民たるものなれ。

新編 系統地理

〔高等女學校用日本之部〕〔終〕

明治四十五年一月廿三日印
明治四十五年一月廿六日發行
明治四十五年三月廿三日訂正印刷
明治四十五年三月廿六日訂正發行

系統地理女學校用日本

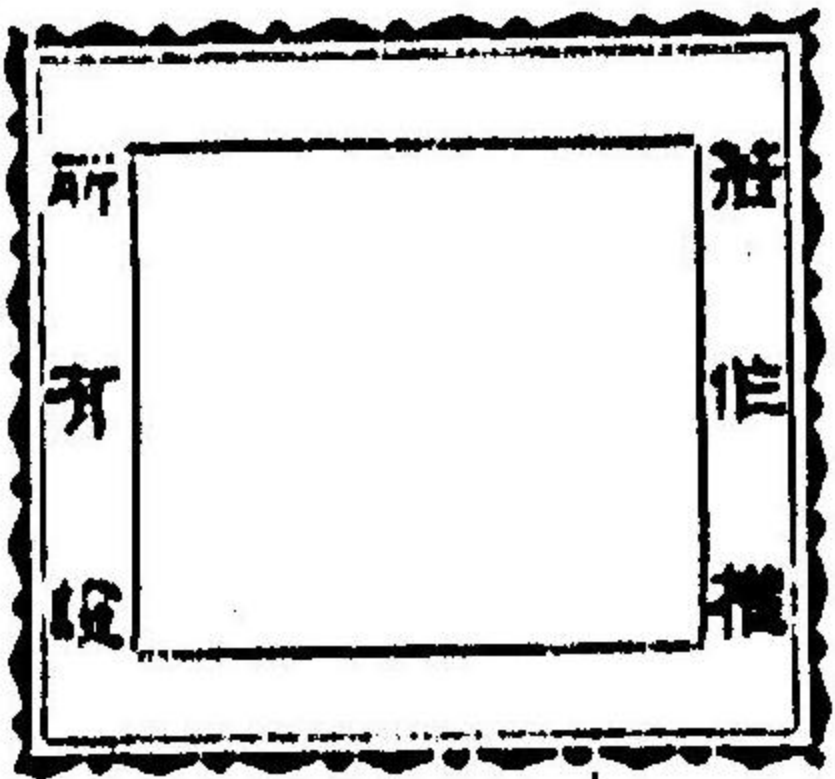
定價金五十錢

著者 守屋荒英雄

發行者 杉本光治

印刷者 金子久太郎

印刷所 三協印刷株式會社



發行所

東京市日本橋區
本石町二丁目

杉本光文館

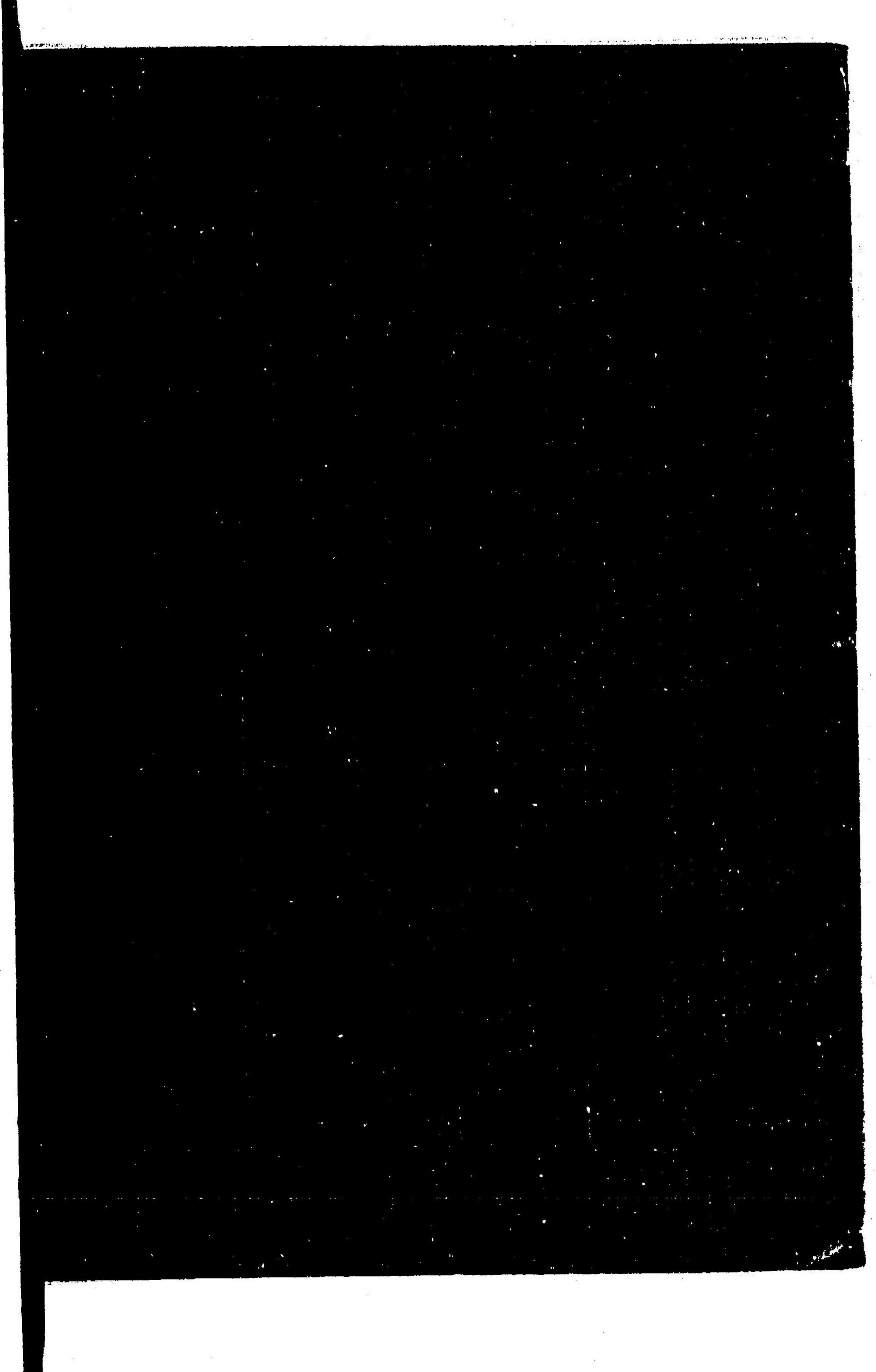
電話本局一六九八番 接替口座東京五六二三番

關西代理店

大阪市南區
心齋橋筋二丁目

松村文海堂

電話南九番 接替口座大阪四三三〇番



021949-000-0

特20-801

最新系統地理 一女学校用・日本之部一

守屋 荒美雄/著

M45

ADA-0199

